

お疲れさまでした！

上演校⑩ 岐阜県立長良高校

「文学の子」

西野勇仁 作

学びを愛し、愛して学ぶ

あらすじ

皆さんは本がどのように伝わってきたのか知っていますか？五千年前、中国で世界最古の書物が誕生しました。「易経」というものです。それから本はいろいろな人々の間で受け継がれてきました。

内戦が続くシリアでは、アスマーたちがある音に導かれ図書館を作り、明治では坪内逍遙が岡倉、高田と共に西洋文学を通じて文学の真髄へと突き進んでいきます。時は流れ現代、佳乃子が島村の好きな本を当てようと凜音を頼るが・・・

文学とは、時代を伝え、世界を伝え、時代と世界をつなぐ架け橋となるものです。ぜひこの作品の愛に触れてみてください。



お客様の声

- ・ 歌も入っていて感情の込め方に感動した。
- ・ いくつもの世界線を通して愛することの尊さを伝える素敵な作品だった。
- ・ 文学というテーマを通じてそれぞれの時代を生きた人間たちのエネルギーを感じた。
- ・ 音響がリアルで、実際に戦場にいる気分になった。
- ・ 大道具や小道具、衣装など細かい箇所までこだわられていて、作品に対する愛を感じた。



速報係が見た。この劇の感想！

戦争の中、図書館という希望を守り切ったシリアの人々、日本文学を導いた大正、明治を生きた人々、そして現代を生きる高校生の目線で劇が進み、「文学」を通じた時代や国を超えた人の力を強く感じた。シリアスな場面が多かったが、笑える場面も多く、見ていて楽しかったし感動した。場面転換がとても工夫されていてスムーズだったしわかりやすかった。また、爆撃の音がリアルで、迫力があつた。

主人公たちが世間の目ではなく自分たちの恋を取ったというラストシーンは、まさにみんなが好きな恋愛ができる未来の象徴のように思われた。